

配付資料

- 資料 1 令和 4 年度の事業実施状況（広島）
- 資料 2 令和 4 年度の事業実施状況（長崎）
- 資料 3 令和 5 年度の事業計画（広島）
- 資料 4 令和 5 年度の事業計画（長崎）
- 資料 5 入館者からの感想や意見・要望等（広島）
- 資料 6 入館者からの感想や意見・要望等（長崎）

令和 4 年度の事業実施状況

広島祈念館 1 頁～ 1 0 頁

令和4年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成14年8月）以来、令和5年3月末までの入館者数は、4,912,459人となっており、同期間の平和記念資料館入館者（26,011,967人）の18.9%である。【過去3年間の月ごとの入館者数を9ページに記載】

（参考）年度別入館者数

区分	入館者数	1日平均 入館者数	対前年比	外国人 ^(注) (内数)	
				入館者数	対前年比
令和2年度	69,413人	280人	18.3%	4,195人	2.9%
令和3年度	62,058人	297人	89.4%	3,672人	87.5%
令和4年度	188,170人	518人	303.2%	31,941人	869.9%
累計	4,912,459人	—	—	—	—

(注)外国人入館者数とは、総合案内において外国語版のリーフレット又はチラシを配布した人数を集計している（平成24年度から集計開始）。

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

広島県内各市町での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、8月6日に原爆死没者名簿への登載確認等との共同窓口を設置している。

また、被爆者証言ビデオの収録や被爆体験記執筆補助事業などの機会をとらえ、登録申請を呼びかけた。さらに、遺影登録に際し、マスコミに情報提供するなど遺影登録の周知を図った。

この他、令和4年度は、関西7府県の被爆者対策担当課へ出向き、直接、遺影登録等についての案内を依頼した。

（参考）年度別登録状況

区分	原爆死没者数（登録数）	対前年比
令和2年度	650人	84.5%
令和3年度	753人	115.8%
令和4年度	1,005人	133.5%
累計	26,197人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

各都道府県の窓口にて体験記等の収集を周知するチラシを配布したほか、被爆者証言ビデオ収録などの機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけるとともに、体験記執筆補助事業（平成 18 年度開始）により収集に努めた。また、新聞等に掲載された被爆体験記の記事を確認し、発行者等へ照会して、寄贈又は購入の依頼を行った。

収集した被爆体験記については、より一層の活用を図るため、データベース化、イメージデータ化及びテキストデータ化を推進し来館者の利便性の向上を行った。

（参考）年度別被爆体験記収集状況

区分	体験記収集数（編）					図書収集（冊）		公開数 ^{（注1）} （編）
	H7 厚生省	H17 厚労省	H27 厚労省	独自収集	計	購入	寄贈	
令和 2 年度	0	0	▲11	57	46	126	85	219
令和 3 年度	▲1	0	▲2	51	48	154	72	686
令和 4 年度	▲1	0	▲2	68	65	162	93	531
累計	81, 203	11, 778	11, 331	3, 555	107, 867	2, 560	3, 370	148, 859

（注 1）被爆体験記として収集後、内容を整理・精査し登録対象外とする場合があり、また収集年度と公開年度が異なる場合があるため、各年度の収集数と公開数は一致しない。

（参考）被爆体験記のデータベース化等の進捗状況

区分	編数	割合
館内公開体験記数	148, 859	—
データベース化 ^{（注2）}	145, 411	97. 6%
イメージデータ化 ^{（注3）}	107, 800	—
テキストデータ化 ^{（注4）}	3, 226	—

（注 2）データベース化とは、来館者が閲覧を希望する被爆体験記を容易に検索できるよう、被爆体験記に書かれている情報に基づき、被爆者の氏名、年齢、所属及び被爆場所、登場する人物、場所及び時期などを、職員が分類・整理し、システムに登録する作業をいう。

（注 3）イメージデータ化とは、館内公開している被爆体験記を、展示端末画面で容易に閲覧できるよう、被爆体験記をスキャンしてシステムに登録することをいう（平成 24 年度から実施）。

（注 4）テキストデータ化とは、被爆者が書いた被爆体験記を読みやすく、また、将来、多種多様なキーワードにより検索が可能となるよう、被爆体験記を文字入力する作業をいう（平成 24 年度から本格的に実施）。

4. 企画展の開催

企画展示室（地下 1 階）において、下記のテーマに沿った企画展を開催した。関連資料を展示し、被爆体験記をディスプレイで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映した。

なお、これらの映像資料についてはインターネットに掲載するとともに、平和学習資料としてDVDや資料の貸出を行っている。

(1) 「震えるまなざし ― 撮影者たちが残したことば ―」

期間：令和4年3月1日(火)～令和4年12月29日(木)

概要：軍所属のカメラマン、写真店の店主、新聞社に勤務する中学生等、全く異なる職業や立場の撮影者たちが、目をそらしたくなる気持ちを押し殺しながら、ファインダーに映る被爆後の悲惨な状況をいかにしてフィルムに収めたのか。そしてその体験を、彼らの鋭い描写力でどのようにことばに表したかを明らかにする。

〔実際にキノコ雲を写したカメラ等を展示するとともに撮影者たちの体験記を公開〕



(2) 「空白の天気図 ― 気象台員たちのヒロシマ ―」

期間：令和5年3月15日(水)～令和6年2月29日(木)

概要：原爆は、爆心地から約3.7km離れた広島地方気象台にも多大なる被害をもたらした。そうした状況下でも気象台員たちは、決死の覚悟で任務に挑んだ。また、被爆後わずか1か月で広島を襲った枕崎台風は、原爆被害を一層深刻なものにした。台員たちはこの二重の被害を後世に伝えようと、詳細な聞き取り調査を行い、調査報告書にまとめた。今回の企画展では、観測者の視点で記録された被爆体験記をもとに被爆の実相を明らかにする。

〔気象観測器等を展示するとともに気象台員たちの体験記を公開〕



5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲がありながら高齢等により体験記の執筆が困難な広島県内の被爆者を対象に、職員による聞き取りと代筆を行った。（平成 18 年度開始）

（参考） 年度別実施状況

区分	応募数	実施者数	辞退数 (体調不良等)
令和 2 年度	9 人	6 人	4 人
令和 3 年度	10 人	9 人	1 人
令和 4 年度	10 人	8 人	2 人
累計	205 人	177 人	31 人

※ 令和 2 年度の実施者には前年度応募者 1 名を含む。



被爆当時の地図などを見ながら被爆体験を聞き取りします

6. 被爆者証言ビデオ制作

被爆者団体等から推薦された広島県外在住の被爆者を対象に、長崎祈念館と協力（長崎被爆者については長崎祈念館が収録・編集を担当）し、その体験談をビデオに収録（令和 4 年 9 月～11 月）し、編集作業を行った。制作した証言ビデオについては、令和 5 年 5 月から館内の体験記閲覧室で公開する。



カメラを前に被爆体験を語っていただきます

（参考） 年度別制作状況

区分	実施人数	収録都道府県
令和 2 年度	5 人	京都 1 人、大阪 1 人、兵庫 3 人
令和 3 年度	21 人	山口 1 人、鳥取 3 人、愛媛 4 人、岡山 5 人、大阪 1 人、千葉 3 人、東京 4 人
令和 4 年度	13 人	東京 6 人、神奈川 2 人、大阪 3 人、福岡 2 人
累計	418 人	45 都道府県で収録（広島県及び長崎県を除く。）

また、国外在住の被爆者証言ビデオの制作については、令和 3 年度同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国外における収録対象者の確保・調整が困難であったことから、制作できなかった。

(参考) 年度別制作状況

区分	実施人数	国・地域
令和2年度	－	実施していない
令和3年度	－	実施していない
令和4年度	－	実施していない
累計	67 人 (68 本)	韓国 (34 人)、台湾 (4 人)、アメリカ (18 人)、アルゼンチン (1 人)、オーストラリア (1 人)、カナダ (2 人) (うち 1 人は日本語、英語で 2 本収録)、ブラジル (5 人)、メキシコ (2 人)

7. 多言語化対応事業

海外から来館するさまざまな国や地域の人に、被爆の実相を母国語で伝えるため、令和4年度は被爆者証言ビデオの証言内容を英語、韓国・朝鮮語、オランダ語、スペイン語、ドイツ語、ハンガリー語、ヒンディー語、フランス語、ポーランド語、ロシア語の10言語に翻訳した。(証言ビデオの字幕及び体験記の翻訳言語数は24言語)

(多言語化の詳細を10ページに記載)

8. 被爆体験記の朗読事業

収集した被爆体験記を活用し、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを語り継ぐことを目的に平成17年度から実施している。修学旅行生や市内の学校などを対象とした朗読会、毎月第3日曜日(日本語)、第2日曜日、第4金曜日(英語)に開催する定期朗読会、8月5日、6日の朗読会、市内近郊への出前朗読会も開催した。また、全国で朗読会を開催したいとの要望に応えるため、朗読セットを国内6団体へ貸し出した。



祈念館内での朗読会

(参考) 年度別開催状況

(単位：回)

区 分	定期	集中開催 5/3-5, 8/5-6	広島市内	原爆展	英語朗読 (英語定期含む)	計
令和2年度	14	4	32	開催なし	0	50
令和3年度	12	13	34	開催なし	2	61
令和4年度	24	15	60	開催なし	※13	112

※ 新型コロナウイルスの影響により、来日する外国人が減少したことから英語での定期朗読会の開催を中止していたが、令和4年度12月より再開した。

9. 被爆体験伝承者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを日本全国の次世代に語り継ぐため、「被爆体験伝承者」と「被爆体験記朗読ボランティア」を、国内の学校等へ無料で派遣し、被爆体験伝承講話及び被爆体験記朗読会を実施した。令和2年度からは、「被爆体験証言者」の派遣も開始した。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染対策を行った上で全国に416件（証言講話12件、伝承講話374件、朗読会30件）の派遣を行い、延べ約5万2千人の児童・生徒等が聴講した。

（参考）地域別派遣件数

（単位：件）

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
件数	11	4	85	64	187	42	13	10	416

（参考）申込団体別派遣件数及び聴講者数

（単位：件・人）

区分	小学校	中学校	高等学校	自治体	その他	計
件数	218	105	63	24	6	416
聴講者数	19,699	15,454	13,345	3,908	235	52,641

10. 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修

新型コロナウイルス感染拡大の影響により被爆体験伝承者等の海外派遣を実施できなかったため、研修は実施しなかった。

11. 修学講習の実施

被爆体験の次の世代への継承と平和意識の高揚を図るため、修学旅行などで広島を訪れた児童・生徒等を対象に、被爆者による被爆体験講話等を内容とする講習を追悼平和祈念館研修室で行った。

（参考）令和4年度実施状況

（単位：件・人）

区 分	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	123	74	43	217	457
聴講者数	2,815	1,486	1,018	1,957	7,276
1団体あたりの 平均聴講者数	22.9	20.1	23.7	9.0	15.9

12. 広島平和学習セミナーの開催

令和元年度まで、平和学習を目的とする多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催していた。令和4年度は、令和3年度と同様、広島市主催の平和学習講習会に参加し、祈念館で実施している平和学習の紹介を行った。

（参考）年度別開催状況

区分	開催都市		参加者
令和2年度	開催していない		
令和3年度	オンライン	令和4年8月16日	114人
令和4年度	オンライン	令和4年8月18日	199人
	大阪府大阪市	令和5年1月27日	34人

13. インターネットによる情報提供

当館の事業内容を、ホームページ <https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/> で広く情報提供するとともに、外部提供について同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオを、順次、平和情報ネットワーク <http://www.global-peace.go.jp/> に掲載し情報発信した。

（参考）ホームページアクセス件数

区分	祈念館ホームページ	平和情報ネットワーク
令和2年度	1,001,139	3,978,834
令和3年度	623,182	5,360,976
令和4年度	727,274	6,847,635

※ 平和情報ネットワークは、広島・長崎両館が合同で運営している。

14. 情報展示システムの保守・管理および企画展示室の改修

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、令和5年度の情報展示システム機器更改に向けたシステム改修を行うとともに、企画展示室の改修を行い、190インチの大型スクリーン等を設置し、入館者増を図った。

1 5. 来館者増加対策等

広報紙、ホームページや新聞等を通じて情報発信に努めたほか、企画展の案内看板を屋外に掲出する等、あらゆる機会を捉え、P Rに努めた。

1 6. 新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた取り組み

開館中は次のとおり対策を講じた

- ・南側出入口を入口専用、北側を出口専用とし、一方通行の動線とした。
- ・入館の際、検温、手指消毒を実施した。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（平和記念資料館との比較）

令和2年度

区 分	祈念館	資料館	割合	祈 念 館 対前年度比
R2 4月	0	0	0.0 %	0.0 %
5月	0	0	0.0 %	0.0 %
6月	1,636	9,314	17.6 %	5.0 %
7月	3,920	19,797	19.8 %	13.2 %
8月	7,244	40,427	17.9 %	16.7 %
9月	10,153	38,362	26.5 %	28.0 %
10月	11,448	66,339	17.3 %	24.7 %
11月	19,486	85,199	22.9 %	51.8 %
12月	5,162	27,462	18.8 %	26.2 %
R3 1月	0	404	0.0 %	0.0 %
2月	2,962	7,037	42.1 %	19.6 %
3月	7,402	34,249	21.6 %	／ %
合計	69,413	328,590	21.1 %	18.3 %
累計	4,662,231	24,479,605	19.0 %	—

令和3年度

区 分	祈念館	資料館	割合	祈 念 館 対前年度比
R3 4月	5,054	20,158	0.0 %	#DIV/0! %
5月	2,294	15,337	0.0 %	#DIV/0! %
6月	1,455	6,615	22.0 %	88.9 %
7月	6,603	39,644	16.7 %	168.4 %
8月	1,948	9,643	20.2 %	26.9 %
9月	0	0	#DIV/0! %	0.0 %
10月	9,637	67,337	14.3 %	84.2 %
11月	15,037	107,564	14.0 %	77.2 %
12月	9,719	77,496	12.5 %	188.3 %
R4 1月	2,311	16,864	13.7 %	#DIV/0! %
2月	0	0	#DIV/0! %	0.0 %
3月	8,000	45,329	17.6 %	／ %
合計	62,058	405,987	15.3 %	89.4 %
累計	4,724,289	24,885,592	19.0 %	—

令和4年度

区 分	祈念館	資料館	割合	祈 念 館 対前年度比	資 料 館 対前年度比
R4 4月	8,758	46,981	18.6 %	173.3 %	#DIV/0! %
5月	14,286	100,452	14.2 %	622.8 %	#DIV/0! %
6月	12,123	73,041	16.6 %	833.2 %	71.0 %
7月	10,508	59,685	17.6 %	159.1 %	200.3 %
8月	19,521	113,685	17.2 %	1,002.1 %	23.9 %
9月	13,600	82,772	16.4 %	#DIV/0! %	0.0 %
10月	18,280	130,893	14.0 %	189.7 %	101.5 %
11月	21,696	148,349	14.6 %	144.3 %	126.3 %
12月	14,636	91,951	15.9 %	150.6 %	282.2 %
R5 1月	13,087	61,322	21.3 %	566.3 %	4,174.3 %
2月	14,042	67,951	20.7 %	#DIV/0! %	0.0 %
3月	27,633	149,293	0.0 %	345.4 %	／ %
合計	188,170	1,126,375	16.7 %	303.2 %	123.6 %
累計	4,912,459	26,011,967	18.9 %	—	—

7. 多言語化対応

区分	被爆体験記		証言ビデオ				リーフレット 翻訳言語状況
	翻訳編数 (A)	(A)のうち R4年度新規 追加(作成)編数	字幕付本数 (B)	(B)のうち R4年度新規 追加(作成)本数	吹替え本数 (C)	(C)のうちR4年 度新規追加 (作成)本数	
1	英語	453	21	810	4	105	○
2	中国語	371	21	164		105	○
3	韓国・朝鮮語	370	21	163	2	105	○
4	アラビア語	9		10			○
5	イタリア語	9		11			○
6	インドネシア語	9		5			○
7	ウルドゥー語	9		5			○
8	オランダ語	9		5	2		○
9	ギリシャ語	9					
10	クロアチア語			4			
11	スウェーデン語	9		3			○
12	スペイン語	9		15	1		○
13	スロベニア語			6			
14	タイ語	9		5			○
15	ドイツ語	9		39	1		○
16	ノルウェー語	9					
17	ハンガリー語			11	2		
18	ヒンディー語	9		8	1		○
19	フィリピン語	9		5			○
20	フィンランド語	9					
21	フランス語	9		31	1		○
22	ヘブライ語	9		5			○
23	ベトナム語	9		5			○
24	ポーランド語	9		8	2		○
25	ポルトガル語	9		11			○
26	マレー語	9		3			○
27	ロシア語	9		9	1		○
合計編・本数(作成)		1,383	63	1,341	17	315	0
合計言語数(作成)		24	3	24	10	3	0
							21

※ 1 上記以外にも平成29年度は、海外原爆展への協力事業として字幕付き証言ビデオ【ハンガリー語（1本）及びモンテネグロ語（1本）】を製作した。
しかし館内システムやグローバルネットワークでの公開は行っていないため、合計編・本数及び合計言語数から除いている（2023年3月末日現在）

令和 4 年度の事業実施状況

長崎祈念館 1 頁～ 1 4 頁

令和4年度 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成15年7月）以降、令和5年3月末までの入館者数は、2,057,021人（一日平均297人）となっており、同期間の長崎原爆資料館入館者数（12,679,105人）の16.2%である。

なお、令和4年9月14日に入館者200万人突破セレモニーを実施した。

【過去3年間の月ごとの入館者数を14ページに記載】

（参考）年度別入館者数

年 度	入館者数（1日平均）	対前年比	外国人（内数）	
			入館者数	対前年度比
令和2年度 ^(注)	57,917人（194人）	39.3%	9,440人	23.5%
令和3年度 ^(注)	60,600人（250人）	104.6%	9,575人	101.4%
令和4年度 ^(注)	95,260人（360人）	157.2%	28,197人	294.5%
累計	2,057,021人（297人）	—		

（注）令和2年度は、令和2年6月1日～令和3年3月31日までの入館者数。

令和3年度は、令和3年4月1日～27日、6月8日～8月9日、9月13日～令和4年1月20日、3月7日～3月31日の入館者数

令和4年度は、台風14号による臨時休館の9月18日～19日を除いた期間の入館者数

※ 外国人入館者数とは、館内において外国語版のリーフレットを配布した人数を集計している（平成30年度から集計開始）。

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

原爆死没者を追悼し、被爆の実相を後世に伝えていくために、氏名・写真（遺影）を募集し、情報システム登録のうえ館内公開している。長崎県市をはじめ全国の原爆対策担当部署、マスコミ等を通じての周知により、遺族等から、登録を受け付ける。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

令和4年度は九州の大分県、宮崎県、鹿児島県に協力依頼した。

さらに、都道府県の担当者あてに文書を送付して協力を要請した。

（参考）年度別登録状況

年 度	登録された原爆死没者数	対前年比
令和2年度	232人	70.5%
令和3年度	305人	131.5%
令和4年度	334人	109.5%
累計	10,569人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

被爆の実相を後世に伝えていくために、被爆手記・体験記を収集し、情報システム登録やデータ化等の整理のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。マスコミ等を通じての周知、募集により、本人や遺族等から寄贈を受けるとともに、高齢等で執筆困難な場合は執筆補助を行なう。被爆者証言映像制作等の他事業の施行に併せて被爆者団体等への周知を強化し収集増に努めている。

(参考) 年度別被爆体験記収集状況

年 度	体験記収集	対前年比
令和2年度	48 人分	38.7%
令和3年度	36 人分	75.0%
令和4年度	69 人分	191.7%
累 計	586 人分	—

4. 企画展の開催

テーマを定め、祈念館が所蔵する被爆体験記等を選定し、英語、韓国・朝鮮語、中国語に翻訳を行い、広い空間でゆっくりと閲覧できるように交流ラウンジにて実施した。

また、令和3年度に制作したシアター「女性たちの原爆」(館内交流ラウンジで放映する映像作品：約20分)に英語字幕版を制作した。

第12回体験記企画展「ご遺影は語る」

期間：令和5年2月23日～令和5年3月3日

概要：被爆者の体験記・証言ビデオとともに、祈念館の収集の柱である「原子爆弾死没者氏名・遺影(写真)登録」(通称：ご遺影登録)された方の被爆状況を体験記として紹介した。



企画展の様子(交流ラウンジ)

5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲を持ちながらその執筆が困難な被爆者を対象として聞き取りと代筆を行った。(平成17年度開始)

令和4年度は、長崎県と長崎市の協力を得て、長崎県内の被爆者へ直接協力をよびかけたことにより、多くの体験記が集まった。今後も自治体などと協力し、収集に努めていきたい。

(参考) 年度別収集状況

年 度	収集数
令和2年度	6人
令和3年度	21人
令和4年度	64人
累 計 (平成17年度から)	166人



執筆補助の様子 (祈念館内)

6. 被爆者証言ビデオ制作

被爆の実相を後世に伝えていくために、地元放送局等に業務委託して、被爆体験に係る証言ビデオを制作・収集し、情報システム登録のうえ館内のほか「グローバルネット」等で公開している。被爆者団体等の協力・紹介を得て、制作・収集の増に努めている。

(参考) 年度別制作・収集状況

(1) 国内

年 度	収録数	収録都道府県
令和2年度	6人	福岡 (1人)、長崎 (5人)
令和3年度	7人	東京 (1人)、福岡 (1人)、長崎 (5人)
令和4年度	22人	東京 (3人)、神奈川 (3人)、愛知 (1人)、大阪 (2人)、福岡 (3人)、長崎 (10人)
累計	443人	

(2) 海外

年 度	収録数	国・地域
令和元年度	7人	韓国 (3人)、アメリカ (4人)
令和2年度	4人	アメリカ (3人)、アルゼンチン (1人)
令和3年度	3人	アメリカ (1人)、ブラジル (2人)
令和4年度	2人	アメリカ (1人)、ブラジル (1人)
累計	76人	韓国 (12人)、アメリカ (27人)、ブラジル (23人)、カナダ (5人)、ボリビア (3人)、メキシコ (1人)、ペルー (1人)、アルゼンチン (2人)、パラグアイ (1人)、オランダ (1人)

7. 多言語化対応事業

当館外国語ネイティブスタッフにより、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心に被爆体験

記、証言ビデオ等収集資料の翻訳や吹替えを行い、簡易製本化や情報システムへの登録のうえ、館内での公開のほか、「グローバルネット」等で広く世界に発信・紹介している。

(参考) 年度別翻訳状況【体験記】

年度	翻訳数 (編)				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
令和2年度	5	5	5	0	15
令和3年度	4	4	4	0	12
令和4年度	7	23	23	0	53
累計	180	196	196	44	616

※「その他」フランス語7編、ドイツ語4編、イタリア語3編、スペイン語5編、ポルトガル語3編、ロシア語6編、ベンガル語1編、カザフ語1編、マレー語2編、アラビア語2編、ベトナム語3編、ハンガリー語2編、モンテネグロ語2編、オランダ語2編、ヒンドゥ語1編

【被爆者証言ビデオ】 ※ () 内数は字幕数

年度	翻訳吹替え・字幕数 (編)				
	英語	韓国・朝鮮語	中国語	その他	合計
令和2年度	3(3)	3(3)	3(3)	2(2)	11(11)
令和3年度	3(3)	3(3)	3(3)	0	9(9)
令和4年度	0	0	0	0	0
累計	56(24)	56(24)	56(24)	36(18)	204(90)

※「その他」オランダ語5編、ロシア語8編、フランス語8編、ドイツ語8編、アラビア語3編、ベトナム語2編、ポルトガル語2編

令和4年度は過去の証言ビデオの見直しを行い、英語3編、中国語21編、韓国語22編の字幕を修正した。

8. 被爆体験記の朗読事業

被爆者が高齢化し、被爆者の声を直接聴くことが難しくなっていく中、被爆体験を継承していくあらたな方策の一つとして平成23年度から事業を開始した。収集した体験記を有効に活用していくという側面を有し、朗読ボランティア育成と朗読ボランティアの派遣を柱とする。平成24年度と平成25年度の2年間で朗読ボランティア育成講座を実施・完了した。講座修了者のボランティア登録を受け、平成26年度から祈念館内での定期朗読会の開催、市内・近隣の小中学校等への派遣朗読会の実施等、本格的に活動を行い、さらに朗読ボランティア「永遠の会」を結成し、平成27年度は「永遠の会」を組織化。世話人会を結成し、代表、副代表を選出。事務局と連携しながら、自主的な運営のもと活動を広げている。平成30年度には、第2期生育成講座を実施・完了した。

令和4年度は館内での常駐朗読は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策（アクリル板の設置等）を講じた上で、地下1階追悼コーナーで、「9日を忘れない」朗読会は原爆資料館いこいの広場で開催した。また、第17回定期朗読会を4月に、第18回定期朗読会は11月に開催した。

また、令和4年度は市内の小学校2校、中学校2校に朗読指導を行うとともに、若者の参画のためにU-25の募集を開始した。

（参考）年度別開催状況 メンバー構成（令和5年3月末現在） 70人（女性63人、男性7人）

年 度	常駐朗読	定期朗読会 (9日を忘れない)	国内朗読派遣	その他（朗読劇など）
令和2年度	88回	4回（3回）	21回（学校・団体他）	
令和3年度	48回	5回（5回）	31回（学校・団体他）	2回（意見交換会）
令和4年度	89回	2回（12回）	36回（学校・団体他）	

〈活動の様子〉



アクリル板を設置しての常駐朗読
(追悼コーナー)



朗読会「9日を忘れない」
(原爆資料館いこいの広場)



第18回定期朗読会
(交流ラウンジ：オンライン開催)

9. 家族・交流証言者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを次世代に語り継ぐため、平成30年度から「家族・交流証言者」及び「被爆体験記朗読ボランティア」を全国の学校等へ無料で派遣し、家族・交流証言講話及び被爆体験記朗読会を開催した。国内外の数多くの児童、生徒、一般市民が聴講した。

令和4年度は、新型コロナウイルスとの共存へ移行したため派遣件数が増加した。

（参考）年度別実施状況【長崎市外派遣】

年度	全件数	長崎市外			
		家族・交流	朗読会	体験講話	聴講者数
令和2年度	56件	42件	13件	1件	9,226人
令和3年度	94件	57件	25件	12件	21,611人
令和4年度	145件	100件	23件	22件	22,412人
累計（H30年度～）	574件	366件	173件	35件	108,514人

〈派遣の様子〉



被爆体験記朗読会
(2/4 東京都北区立王子第三小学校)



家族・交流証言講話
(5/10 福岡県飯塚市立飯塚東小学校)



被爆体験講話
(12/16 熊本県立岱志高等学校定時制)

【海外派遣】

年 度	場 所	期 間	件 数	聴講者数
令和2年度	実施無し			
令和3年度	スペイン日本人学校 (オンライン講話)	2月17日	1件 ※被爆体験講話 1件	41人
令和4年度	実施無し			

10. 家族・交流証言者等に対する語学等の研修

来日外国人に対して、また国外においても講話や朗読が行えるようスキルアップを図るため、被爆体験の家族・交流証言者及び被爆体験記朗読ボランティアについて、語学等の研修を実施した。令和3年度に引き続き、令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインによる研修及び少人数での対面による研修を実施した。

(参考) 家族・交流証言者語学育成研修 ※対面による少人数指導

・受講者 4人

・実施内容 令和4年12月～令和5年3月 毎週1回 計13回実施

被爆体験記朗読ボランティア語学育成研修 ※オンラインによるグループ指導

【中・上級者向けレッスン】

・受講者 8人

・実施内容 令和3年12月～令和4年3月 隔週1回 計6回実施

【初級者向けレッスン】

・受講者 13人

・実施内容 令和3年12月～令和4年3月 隔週1回 計7回実施

11. 修学講習（被爆体験講話）の実施

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、永く後代まで語り継ぐという当館の理念を実現するため、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のために被爆体験講話を実施している。

（参考）年度別実施状況

年度	回数	利用者数
令和2年度	62回	1,489人
令和3年度	81回	2,680人
令和4年度	157回	3,969人
累計（平成20年度から）	1,851回	47,920人

※ 会場収容人数は最大40人。講話前後には追悼空間での平和集会を実施する学校も増えている。

12. 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、令和5年7月に実施予定のシステム機器の更改に当たり、被爆者・遺族などの当事者世代の高齢化や来館者の多様化により起因する情報提供のあり方の変化に対応したより利用者視点に立った展示の見直し、併せて、新ハードウェア構成での現システムへの影響などを考慮し、システム改修を行った。

13. 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（原爆後障害医療研究所国際保健医療福祉学研究分野）の協力のもと、世界の放射線事故情報、放射線Q&A等を含めた被ばく医療情報を館内や「グローバルネット」で広く提供するほか、館内の交流ラウンジにおいて、被爆者を対象とした健康講話（「被爆者健康講話」。被ばく医療研究の成果として、高齢となる被爆者の健康維持に資する情報を親しみやすいテーマにして提供）を行っている。平成24年度からは、館内での講話に加え、長崎県、五島市の協力を得て、多くの被爆者がいる長崎県内離島部（五島市）とインターネットで結んで講話を中継する取り組みを実施し、多数の参加を得ていたが、令和2年度より五島会場からの中継は廃止した。

令和4年度は、8月より対面とオンラインによるハイブリッド形式での講話を再開し、録画したものを祈念館ホームページに掲載した。

(参考) 年度別実施状況 【被爆者健康講話】

年度	回数	利用者数		
		長崎会場	五島会場	合計
令和2年度	5回	—	—	—
令和3年度	6回	—	—	—
令和4年度	7回	232人	—	232人
累計 (H20年度開始)	136回	4,291人	1,218人	5,509人

※令和2～3年度は、対面での実施が無いため、利用者数はカウントできず。

(講師が大学内で録画したものを祈念館ホームページに掲載)

14. 平和関連情報の収集・整理・提供

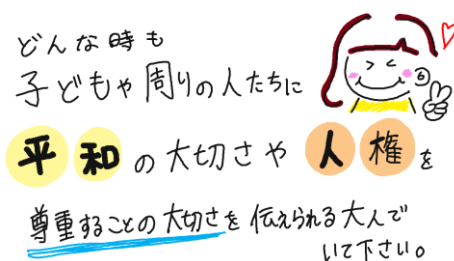
来館者に「平和へのメッセージ」を作成していただき祈念館で保存・公開する。メッセージは祈念館で長期保存され、いつでも館内で閲覧ができる。館内のタブレット端末や用意されたカードに自由に記入するものと、画用紙などに記入して祈念館に持参するものがある。

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自筆式のカード記入は中止し、タブレット端末のみ感染防止対策を講じた上で開放した。

著名人では、作曲家でピアニストの加古隆さん (R4. 5. 17)、EXIL TAKAHIRO (R5. 3. 1) にも「平和のメッセージ」を書いていただいた。

(参考) 実績

年 度	収集登録数
令和2年度	11件
令和3年度	814件
令和4年度	2,162件
累計	92,172件



タブレット端末でのメッセージ入力
(情報コーナー2)

15. 海外原爆展の開催

「原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設」としての祈念館の位置づけ、特に長崎祈念館の「国際協力及び交流」機能に鑑み、被爆の実相を広く世界に伝えるため、被爆 60 周年という節目の年にあたる平成 17 年度から実施している。

広島・長崎の両市が主催してポーランドで実施したヒロシマ・ナガサキ原爆展に、当館で製作した被爆体験記集ポーランド語 150 冊、英語 50 冊を提供した。

令和 4 年度は 3 月 1 日から米国ハワイ大学で実施、新型コロナウイルス感染症拡大のため、職員及び被爆者の渡航は中止し、展示のみ実施した。なお、被爆体験講話については、3 月 23 日にオンラインで実施した。

開催場所：ハワイ大学マノア校（米国ホノルル市）

開会式では、長崎追悼平和祈念館長からのビデオメッセージを流した。



展示会場の様子



被爆体験講話(オンライン)

(参考) 年度別開催状況

年 度	会 場	場 所	期 間	来場者数
令和 2 年度	日本博物館 SieboldHuis	ライデン市 (オランダ王国)	R2 年 9 月 25 日～ R3 年 2 月 14 日	3,281 人
令和 3 年度	シーボルト博物館	ヴュルツブルク市 (ドイツ)	10 月 1 日 ～11 月 28 日	350 人
令和 4 年度	ハワイ大学マノア校ハ ミルトン図書館	ホノルル市 (米国)	3 月 1 日～3 月 31 日	2,254 人

※これまでの開催実績 【開催国・都市数】13 か国・24 都市

アメリカ 5 都市、スペイン 1 都市、ベルギー 1 都市、マレーシア 1 都市、オランダ 2 都市、トルコ 2 都市、ロシア 1 都市、アイスランド 2 都市、ニュージーランド 2 都市、カザフスタン 3 都市、ドイツ 2 都市、ベトナム 1 都市、ポルトガル 1 都市 【延べ来場者数】123,135 人

16. 外国語講座の開催

国際交流事業の一環として、祈念館や被爆建造物等の外国語による案内や平和関連国際会議等において通訳の出来るボランティアを育成するため、毎年、英語、韓国・朝鮮語、中国語の各講座を実施している。専門的・実践的な知識の習得に力を入れており、より高度なレベルでの対応ができるよう、実際にガイドを希望するガイド登録者を対象とした少人数制とし、OJTを含む育成を行った。

令和4年度は5月～6月に、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策（オンライン）を講じた上で、開催した。

（参考）年度別開催状況

年度	開催講座（ ）：クラス数	受講者（修了者）数
令和2年度	英語（1）、韓国語（2）、中国語（2）	24人
令和3年度	英語（1）、韓国語（2）、中国語（2）	27人
令和4年度	英語（1）、韓国語（1）、中国語（1）	22人

※ 令和4年度修了者内訳 英語11人（前年比+2）、
韓国語7人（前年比-3）、中国語4人（前年比-4）

※ 修了者（中級以上）は（公財）長崎平和推進協会の
平和ボランティアとして登録され、依頼により当館や
資料館の案内、国際会議での対応等に派遣される。

〈令和3年度ボランティア登録者数〉

英語76人、韓国・朝鮮語9人、中国語16人



原爆資料館で実施したフィールドワーク（中国語）の様子

17. インターネット会議システムによる平和学習・交流

祈念館への訪問が難しい遠隔地の児童・生徒に向けて、被爆の実相を伝えることにより平和を希求する心を育むことを目的に、インターネットによる会議システムを利用して、祈念館と現地をつなぎ被爆体験講話を中心とした平和学習を実施している。

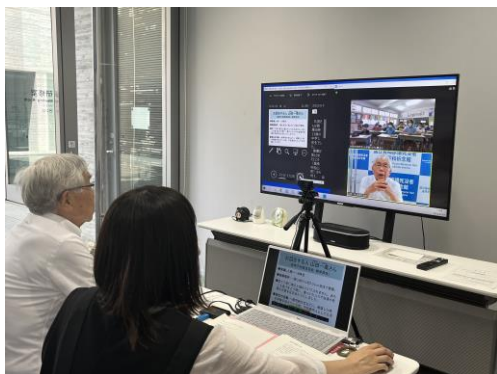
現在、被爆者が直接出向くことなく現地に居ながらにして遠隔地と交流ができる特性を活用して、祈念館と海外の学校や自治体等との海外ピースネットも実施している。

令和4年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、修学旅行で長崎に来ることができない近県の学校も対象に実施した。

（参考）年度別実施状況 ※（ ）内数は海外との数

年 度	回 数	利用団体数
令和2年度	38(0)回	38 団体
令和3年度	55(5)回	57 団体
令和4年度	40(3)回	41 団体
累計（平成16年度から）	512(49)回	443 団体

〈ピースネットの様子〉



2022.7.1 豊玉小学校



2022.10.12 インドネシア
スラバヤ日本人学校

18. 国際協力・交流プログラムの実施

「アジアの若者によるネットワーク構築プログラム」APN (The Asian Youth Peace Network Program) (以下、APN という) とは、マレーシア、韓国、中国等から教官、学生を長崎に招いて毎年2月頃に実施する事業で、名称のとおりアジアの若者による平和ネットワークの構築・拡大を目指し、平成22年度から実施している。令和4年度は対象国を拡大し、「若者による平和ネットワーク構築プログラム(Nagasaki Youth Peace Network Symposium)」と改称し、国内外の参加者を招き、3年振りに対面で開催した。「Knowing the other side 他者を知る」をテーマに、社会と世界に向けた平和の発信を意識したプログラムを実施した。

(参考) 年度別実施状況

年度	国名/招聘	期間
令和2年度	海外からの招聘無し(オンライン)	2月27日
令和3年度	海外からの招聘無し(オンライン)	2月25日～2月26日
令和4年度	米国7人、マレーシア7名、タイ1名、インドネシア2名、ウズベキスタン1名、ミャンマー1名、中国1名、韓国1名※	2月18日～2月19日
累計 (平成22年度～)	マレーシア79人、韓国61人 インドネシア3人、中国人25人、米国7人、ウズベキスタン1人、タイ1人	—

※令和4年度参加者数：

外国人学生(海外及び留学生)：17名、

日本人学生(広島、沖縄、長崎から参加)：13名

計30名

※国内留学生含む



海外からの学生たちと意見交換する被爆者

19. 国際平和映画祭の開催

映画を通じて平和の大切さや被爆の継承について考える契機とするため、原爆や平和をテーマにした映画を上映している。(平成 22 年度開始)

令和 4 年度は事前の申込制とし、ながさき MICE と共催し、会場を出島メッセ長崎に移して感染対策を講じながら実施した。3 作品を上映したほか、平和祈念特別企画としてウクライナ出身の歌手を招き、コンサートを行った。

(参考) 年度別開催状況

年 度	上映映画数	期 間	来場者数	備考
令和 2 年度				コロナ禍により開催中止
令和 3 年度	3 作品	12 月 19 日	144 人	
令和 4 年度	3 作品	11 月 9 日	368 人	
累計	82 作品	—	14,767 人	

※上映作品 (令和 4 年度)

【映画】「ゴジラ」

「神父とシスターと爆弾」

「エセルとアーネスト ふたりの物語」

20. 「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業の実施

令和 3 年度から、長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) に委託して、祈念館が収蔵する被爆者の体験記や原爆資料館が収蔵する写真などをデジタル化し、学生向けの教材としてインターネットで国内外の大学に提供するなど、若い世代への被爆の実相を伝える取り組みを実施した。

令和 4 年度は、令和 3 年度に収集した「被爆前の長崎」の写真を活用した平和教育教材を 5 本制作した。また、令和 3 年度に制作を開始した被爆前後の様子を比較しながら見ることができる航空写真マップ「航空写真アーカイブ」が完成した。

完成した成果品を広く利用してもらうため、ホームページ「被爆前の日常アーカイブ」を開設した。

21. その他（館内利用）

学校関係者、旅行代理店に対し、平和集会や献花式での「追悼空間」の利用を促しているが、令和4年度は令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、職員による対面での説明・参加者による合唱、平和への誓いなどを行わないなどの対策を講じた上での利用とした。

（参考）実績 【追悼空間利用】※平成19年度から統計開始。

年 度	件 数（学校数）	利用者数
令和2年度	212 件	11,038 人
令和3年度	309 件	16,644 人
令和4年度	384 件	23,161 人
累計（平成19年度～）	2,707 件	153,862 人

※その他、交流ラウンジで開催予定の多くの市民が参加するようなイベントは、新型コロナウイルス感染拡大状況をみながら、対策を講じたうえで、徐々に実施した。

22. 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取り組み

新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底することで、来館者が安全安心に見学できる施設の環境づくりに努めた。

- ・感染拡大防止の取組：①各入口にサーマルカメラ（検温）・消毒液設置
- ②館内動線設定（入口から地下2階は基本一方通行）
- ③館内配布物（チラシ等）の撤去（リーフレットのみ配布）
- ④折鶴コーナー、平和へのメッセージカード記入等、不特定多数がさわるものの撤去
- ⑤交流ラウンジの配置換え（椅子と椅子の距離をとるなど）
- ⑥総合案内にアクリル板設置等
- ⑦空気清浄機の導入（UV 殺菌）
（追悼空間、交流ラウンジ、研修室、研究室、会議室、事務室）

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数について（原爆資料館比較）

令和2年度

区分	祈念館	資料館	割合	新 念 館 対前年度比	資 料 館 対前年度比
R2 4月		1,106	—	—	2.1%
5月			—	—	—
6月	915	3,932	23.3%	5.9%	7.0%
7月	3,193	8,460	37.7%	27.5%	21.6%
8月	5,312	17,066	31.1%	35.5%	26.0%
9月	4,582	22,655	20.2%	34.1%	42.0%
10月	9,944	56,079	17.7%	43.8%	51.7%
11月	15,548	64,513	24.1%	84.2%	72.2%
12月	9,234	33,663	27.4%	101.6%	69.5%
R3 1月	1,519	4,249	35.7%	19.3%	12.9%
2月	1,609	4,795	33.6%	21.7%	16.1%
3月	6,061	19,792	30.6%	—	155.6%
合 計	57,917	236,310	24.5%	39.3%	34.1%
果 計	1,901,161	11,761,013	16.2%	—	—

祈念館臨時休館日：R2.4/1～5/31

資料館臨時休館日：R2.4.10～5/31

令和3年度

区分	祈念館	資料館	割合	新 念 館 対前年度比	資 料 館 対前年度比
R3 4月	3,298	13,835	23.8%	—	1250.9%
5月		189	—	—	—
6月	3,351	7,050	47.5%	366.2%	179.3%
7月	6,237	17,892	34.9%	195.3%	211.5%
8月	2,389	7,704	31.0%	45.0%	45.1%
9月	2,182	6,208	35.1%	47.6%	27.4%
10月	11,309	62,837	18.0%	113.7%	112.1%
11月	14,423	91,619	15.7%	92.8%	142.0%
12月	10,038	60,461	16.5%	108.7%	179.6%
R4 1月	2,994	14,342	20.9%	197.1%	337.5%
2月		2,602	—	—	54.3%
3月	4,379	25,427	17.2%	72.2%	128.5%
合 計	60,600	310,166	19.5%	104.6%	131.3%
果 計	1,961,761	12,071,179	16.3%	—	—

祈念館臨時休館日：R3.4/28～6/7、8/10～9/12、R4.1/21～3/6

資料館臨時休館日：R3.4.28～5/31、8/10～9/12、R4.1/23～2/20

令和4年度

区分	祈念館	資料館	割合	新 念 館 対前年度比	資 料 館 対前年度比
R4 4月	4,818	29,371	16.4%	146.1%	212.3%
5月	8,931	64,311	13.9%	—	34027.0%
6月	7,871	50,022	15.7%	234.9%	709.5%
7月	6,878	29,443	23.4%	110.3%	164.6%
8月	7,684	41,515	18.5%	321.6%	538.9%
9月	6,770	47,197	14.3%	310.3%	760.3%
10月	13,938	92,594	15.1%	123.2%	147.4%
11月	12,850	98,993	13.0%	89.1%	108.0%
12月	7,254	59,133	12.3%	72.3%	97.8%
R5 1月	5,287	28,572	18.5%	176.6%	199.2%
2月	5,791	33,627	17.2%	—	1292.4%
3月	7,188	33,148	21.7%	164.1%	130.4%
合 計	95,260	607,926	15.7%	157.2%	196.0%
果 計	2,057,021	12,579,105	16.2%	—	—

祈念館臨時休館日：R4.9/18～9/19台風14号による

資料館臨時休館日：R4.9/18～9/19台風14号による

令和 5 年 度 の 事 業 計 画

広島祈念館 1 頁～ 4 頁

令和5年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業計画

1 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開【資料1、P1参照】

広島県内各市町並びに関東地方4都県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の被爆者対策担当窓口での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、8月6日に原爆死没者名簿への登載確認等との共同窓口を設置し、新規登録を呼びかける。

2 被爆体験記等の収集・整理・公開【資料1、P2参照】

被爆継承担当部署や広島平和記念資料館と連携し、また、広報紙への掲載やマスコミへの情報提供のほか被爆者証言ビデオ収録など、あらゆる機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけ、収集に努める。

収集した被爆体験記は、逐次データベース化を行うとともに、イメージデータ化及びテキストデータ化を推進し館内で公開する。

3 企画展の開催【資料1、P2参照】

企画展示室（地下1階）において、毎年定めるテーマに沿って企画展を開催する。関連資料を展示し、被爆体験記をディスプレイで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映する。

また、映像資料はインターネットに掲載するとともに、平和学習資料としてDVDや資料の貸出を行う。

【現在開催中の企画展】

- (1) タイトル：「空白の天気図―気象台員たちのヒロシマ」
- (2) 場 所：企画展示室（地下1階）
- (3) 期 間：令和5年3月15日(水)～令和6年2月29日(木)

原爆は、爆心地から約3.7km離れた広島地方気象台にも多大なる被害をもたらした。そうした状況下でも気象台員たちは、決死の覚悟で任務に挑んだ。また、被爆後わずか1か月で広島を襲った枕崎台風は、原爆被害を一層深刻なものにした。台員たちはこの二重の被害を後世に伝えようと、詳細な聞き取り調査を行い、調査報告書にまとめた。今回の企画展では、観測者の視点で記録された被爆体験記をもとに被爆の実相を明らか

にする。（シアター映像の上映及び気象観測器等を展示）

【令和6年3月1日以降】

（1）タイトル：「未定」

（2）場 所：企画展示室（地下1階）

（3）期 間：令和6年3月1日（金）～令和7年2月28日（金）（予定）

4 被爆体験記執筆補助【資料1、P4参照】

被爆者の高齢化に対応し、体験記の執筆が困難な被爆者を対象に、聞き取り・代筆を行い、被爆体験記の収集増加を図る。

聞き取り予定人数：5人（一般公募）

5 被爆者証言ビデオ制作【資料1、P4参照】

被爆体験を次の世代へ継承するため、県外在住の被爆者を対象に、その体験談をビデオに収録し、館内の体験記閲覧室で視聴できるようにするほか、ホームページなどで広く公開する。（平成15～18年度に引き続き、平成21年度から実施）

（1）収録者数：関東、中部、九州地方在住の被爆者10人程度

（2）収録者：各都道府県の被爆者団体からの推薦に基づき収録候補者を決定する。

6 多言語化対応事業【資料1、P5参照】

海外から来館するさまざまな国や地域の人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、多言語化を推進する。

被爆者証言ビデオの内容について、スウェーデン語、マレー語、ロシア語の3言語に翻訳する。このほか、被爆者証言の世界化ネットワークとの連携により、英語、中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ハンガリー語、ヒンディー語、フランス語、ロシア語（予定）に翻訳する。翻訳した証言内容をもとに字幕入り証言ビデオを作成し、これまで翻訳している言語と合わせ、24言語の証言ビデオを館内公開する。

7 被爆体験記の朗読事業【資料1、P5参照】

被爆体験記を朗読することにより、特に次代を担う子どもたちへ、被爆体験の継承を図るため、広島市内やその近郊において被爆体験記朗読会を開催する。また、朗読セットを

貸し出しする。

- (1) 修学旅行生を対象とした朗読会や出前朗読会、定期朗読会の開催
- (2) 朗読セット貸出件数：20 団体

8 被爆体験伝承者等の派遣【資料 1、P 6 参照】

被爆体験証言者、広島市が養成している被爆体験伝承者及び上記 7 の被爆体験記の朗読を行うボランティアの国内外への派遣を行う。

なお、実施にあたっては、広島市と調整を図るとともに、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と協力・調整を行い、また、関係機関への周知を図る。

また、今年度からは原爆体験伝承者（国立市が養成）の派遣も開始する。

伝承者等派遣予定件数： 450 件

9 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修【資料 1、P 6 参照】

上記 7 の被爆体験記の朗読ボランティア及び上記 8 の被爆体験伝承者について、語学等の研修を実施する。

10 修学講習の実施【資料 1、P 6 参照】

被爆体験の次の世代への継承と平和意識の高揚を図るため、修学旅行などで広島を訪れた児童・生徒等を対象に、被爆者による被爆体験講話等を内容とする講習を実施する。

11 広島平和学習セミナーの開催【資料 1、P 7 参照】

平和学習を目的とする多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催する。

12 インターネットによる情報提供【資料 1、P 7 参照】

広く国内外に情報発信するため、外部提供について同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオについて、順次、ホームページへ掲載する。

また、収集した図書については、随時、ホームページの図書検索画面に追加し、紹介する。

1 3 情報展示システムの保守・管理及び機器更改【資料 1、P 7 参照】

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行う。

また、館内で使用している全機器の更改を行い、セキュリティ面など、さらなる安全性の向上を図る。

令和 5 年 度 の 事 業 計 画

長崎祈念館

1 頁～5 頁

令和5年度 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の事業計画

1. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開【資料2、P1参照】

今年度も、長崎市原爆被爆対策部援護課、長崎県原爆被爆者援護課の協力を得て、葬祭料の申請時にご遺族の方に氏名・遺影の登録依頼のチラシを配布する。特に長崎市では、令和3年度から葬祭料申請時にご遺族の方に登録の意思確認をしており、更なる登録の推進を図る。沖縄県の被爆対策担当部署に協力依頼を行う。

また、全国の被爆者（特に身寄りのない方など）から問い合わせがあっている、原爆死没者の氏名・遺影の生前登録について、死亡時の連絡体制等に協議が必要なため、引き続き検討を行う。

2. 被爆体験記の収集・整理・公開【資料2、P2参照】

今年度も、長崎市原爆被爆対策部援護課の協力を得て、市内在住の被爆者（約2万人）の方に、体験記寄贈及び執筆補助、証言ビデオへの協力依頼の呼びかけを実施する。（すでに4月に郵送済）

3. 企画展の開催【資料2、P2参照】

テーマを定め、祈念館が収集所蔵する被爆体験記などの中からテーマに沿った体験記を選定し、交流ラウンジ等で開催する。

今年度は、開館20周年記念として、アメリカのノンフィクション作家であるスーザン・サザード氏著「ナガサキ」をテーマに、5人の被爆者の体験やその後の人生などに焦点をあてた展示を行うとともに、サザード氏の講演会を開催する。

(1) 被爆体験記企画展

開館20周年記念企画展（タイトル未定）：秋頃予定

(2) 企画展関連講演会

開館20周年記念企画展関連スーザン・サザード氏講演会（タイトル未定）：秋頃予定

4. 被爆体験記執筆補助【資料2、P2参照】

被爆者の高齢化で被爆体験記の執筆が困難な方を対象に、引き続き、職員が聞き取りと代筆を行ない、館内の手記・体験記閲覧室やオンライン上で公開する。

今年度も、長崎市原爆被爆対策部援護課の協力を得て、市内在住の被爆者（約2万人）

の方に、体験記寄贈及び執筆補助、証言ビデオへの協力依頼の呼びかけを実施する。(すでに4月に郵送済)

聞き取り予定人数：30人

5. 被爆者証言ビデオ（国内・国外）の制作【資料2、P3参照】

被爆者団体等の協力を得て、国内及び国外で被爆者証言ビデオを収録し、館内の手記・体験記閲覧室やオンライン上で公開する。

長崎県在住の被爆者のほか、広島祈念館と連携し、関東・中部・関西・長崎県以外の九州在住の長崎被爆者について収録を行う。

- (1) 収録者数：関東・中部・関西・九州の被爆者25人程度（国内）
北中南米地域2人程度、韓国2人程度（国外）
- (2) 収録者：被爆者団体等からの推薦、又は現地調査に基づき、収録者を確保する。

6. 多言語化対応事業【資料2、P3参照】

被爆の実相と被爆者の声を広く世界に発信するため、引き続き、英語、韓国・朝鮮語、中国語を中心として多言語化（翻訳・吹替え・字幕）を実施する。

当館で翻訳した被爆体験記（開催地の言語：英語）を広島市・長崎市が企画実施するヒロナガ原爆展会場（開催地の言語：英語）で配布してもらうよう、ヒロシマ・ナガサキ平和アピール推進委員会へ提供する。

7. 被爆体験記の朗読事業【資料2、P4参照】

新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、感染防止対策を講じた上で、長崎市内外の小中学校等への派遣、来館者を対象とした館内での朗読を実施するとともに、厚労省収集の体験記を読み込み、館内常駐朗読のための素材の開拓（編集作業も含む）を進める。

昨年度の新たな取り組みとして実施した、長崎市教育委員会の協力を得て、希望する長崎市内の小中学校への朗読指導に赴き、児童生徒に被爆体験記の朗読を体験してもらうことを引き続き実施する。(長崎県内放送のニュース映像参照)

また、今年度新たな取り組みとして、若い世代に朗読活動を手伝ってもらうU-25を設立した。(4月にデビュー済み)

定期朗読会については20周年記念企画として、県の音楽連盟とコラボレーションし、「朗読と音楽」をテーマに開催する。

- (1) 館内朗読会：①定期朗読会年3回（祈念館交流ラウンジ）
②「9日を忘れない」毎月9日11:00～11:30（資料館いこいの広場）
- (2) 派遣朗読会：長崎市内外において、学校や一般の依頼に基づき、朗読会を開催する。
- (3) 常駐朗読会：毎週土・日及び祝日10:00～16:00 祈念館B1F 追悼コーナー

8. 家族・交流証言者等の派遣【資料2、P5参照】

長崎市が養成している家族・交流証言者の国内派遣を行う。上記の被爆体験記の朗読ボランティアや被爆者ご本人も同様に派遣する。

また、今年度からは原爆体験伝承者（国立市が養成）の派遣も開始する。

円滑な派遣を実施するために、インターネットによる派遣申込システムの構築を引き続き検討する。

9. 家族・交流証言者等に対する語学等の研修【資料2、P6参照】

引き続き、英語ネイティブによる語学研修を実施し、スキルアップを図る。

語学研修の成果を発揮する場所として、祈念館内（資料館内）での英語による講話の実施も検討する。

10. 修学講習の実施【資料2、P7参照】

原爆の被害の実相を広く国の内外に伝え、後代まで語り継ぐために、修学旅行生などの団体に会場として「研究室」を提供し、平和学習のための被爆体験講話を実施する。

ただし、今年度は展示システム機器更改が7月にあり、4月～7月は研究室が使用できないため、その間、祈念館内での修学講習は一旦中止となる。

11. 情報展示システムの保守・管理【資料2、P7参照】

長崎祈念館の開館20周年企画として、来館者からニーズのある追悼空間前室での遺影検索を可能とするリニューアルを実施する。（別紙参照）

12. 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供【資料2、P7参照】

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の協力のもと、被爆者を対象とした被爆者健康講話を実施する。講話した様子を録画し、祈念館ホームページに掲載する。

開催回数：6月～翌年3月 10回予定

13. 平和関連情報の収集・整理・提供【資料2、P8参照】

来館者自身が描く文字や絵による、平和のメッセージを収集・公開する。

14. 海外原爆展の開催【資料2、P9参照】

今年度は、次のとおり関係機関と調整を行っている。

ただし、今年度は被爆者への体の負担を考慮して、被爆者の渡航は考えておらず、ピースネット（オンライン講話）を実施する。

【令和5年度海外原爆展開催候補】

候補地	トビリシ市（ジョージア）
候補地選定の経緯	①ジョージアには、ウクライナ侵攻でロシア人が11万人以上避難しており、ロシアの核兵器の使用に強い懸念を持っている。 ②トビリシ市のイリア国立大学が開催に強い意欲を示しており、スムーズな受け入れが期待できる。
概要	トビリシ市（人口400万人：） ジョージアの首都。 イリア国立大学（ILIA State University）は首都トビリシ市にあり、日本語学科を有しており、原爆展の開催は日本語学科が中心となる予定。
開催時期	2023年10月～（予定）

15. 外国語ボランティア育成講座の開催【資料2、P10参照】

今年度は外国語ボランティアとして、実践を積むことを目的とし、座学（オンライン講座）よりもフィールドワークを主体に実施し、昨年度同様、祈念館などで実際にガイドをする。

16. インターネット会議システムによる平和学習・交流【資料2、P10参照】

被爆者の高齢化が進むなか、長崎を拠点に国内外の遠隔地の方へ被爆者の実相を伝えることができるインターネット会議システムの特性を活かし、長崎に来ることが難しい遠隔地の学校等を中心に、海外の大学や海外原爆展のネットワークを通じて海外の都市とも積極的に実施する。

(1) 国内：15か所程度（長崎県内離島など：5か所程度、県外10か所程度）

(2) 海外：2か所程度

17. 国際協力・交流プログラムの実施【資料2、P11参照】

国際的な平和ネットワークの構築を目的として、昨年度に引き続きアジア地域以外の大学などと連携するほか、長崎市や長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）とも連携し、さらに多くの若者らが参加する会議として実施する。

開催時期：令和6年2月頃を予定

参加者：国内外の学生などと対面またはオンラインでセミナーを実施する。

18. 国際平和映画祭の開催【資料2、P12参照】

映画や映像を通じて平和の大切さや被爆の継承について考える契機とするため、原爆や平和をテーマにした映画・映像を上映する。

開催時期：令和5年8月予定

会場：長崎原爆資料館ホール及び平和学習室

19. 「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業の実施【資料2、P12参照】

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）に委託し、祈念館が収蔵する被爆者の体験記や新たに収集した資料や写真などをデジタル化し、学生向けの教材としてインターネットで国内外の大学に提供するなど、若い世代への被爆の実相を伝える。

今年度は前年度に制作したデジタル教材や教材のマニュアルを活用しての教育実践を行う。

これらの事業を実施するにあたり、参加者の安全などを考慮しながら、事業をすすめていくこととする。

以上

入館者からの感想や意見・要望等

広島祈念館 1 頁～ 6 頁

令和4年度 広島祈念館における入館者からの感想や意見・要望・感想

1. 概 要

平成14年9月から「感想ノート」を出口前の机に設置し、入館者に感想や意見等を自由に記入してもらっている。

平成31年度から令和3年度までは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、臨時休館や海外からの旅行者激減などにより、日本語での記述が多かったが、令和4年度後半には、海外からの旅行者も徐々に戻り、外国語（英語、韓国・朝鮮語、中国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語等）の記述も見受けられるようになった。

2. 主な意見・要望等

特になし。

3. 感 想（原文まま、外国語については、翻訳参照）

- 唯一の被爆国の日本から真の平和のメッセージが全世界に届きますように
- もう二度と同じあやまちをくりかえさないように世界で唯一の被爆国として後世の人々に伝えていかないといけないと思いました。いつまでも平和であってほしいです。
- ウクライナとロシアの戦争が一日も早く終わりますように。安心して日々笑顔で過ごせますように祈ります
- プーチンさん どうぞ戦いを一日一分でも早く止めてください。平和を大切にしたいです。
- 何度も来たことがあったが、今日はまた違う気持ちで入館した。みんなが平和を求めているはずなのに、どうしてまだ私達は戦争をしているのだろうか。
- 「ノーモア ヒロシマ！ ノーモア ナガサキ！」「広島、長崎の惨禍を二度と繰り返さない！！」あまりに”当たり前”、あまりに”シンプル”、それでいてあまりに”普へん的”なことが、今この時代、特に風化されずに記憶の彼方に行かないようしっかりとときぞみこんでおきたい。こちらに67歳にして初めて訪れて、その大切さにあらためて気づかされた思いです。スタッフの方々の歴史を語り継いで行こうというご努力に感謝申し上げます。そしてあらためて”ノーモア ヒロシマ！ ノーモア ナガサキ”と。ありがとうございます。
- 先月95才になった母は呉で暮らし、きのご雲を見ていました。2日後 広島市内をトラックの荷台に乗って通りました。母の見たことを何十年も聞き続け、想像していました。今日始めてリアルにその恐ろしさを感じています。ウクライナの人々にまたその悲劇が起ころう

とする今、何もできない自分に生きることを意味を問いかけ人間として生きることに絶望を感じています。

- 子供時代に修学旅行できたのですが、大人になって母になってまた訪れるとまた全然気持ちが違いますね...今日見たこと感じたことを忘れず、残りの人生を生きていこうと思います
- 4年ぶりの広島平和記念公園、楽しい事、悲しい事たくさんあったこの場の発展、未来への思いについて考える良い時間になりました。ありがとうございました。
- 本当に戦争はなくなるべきなのか、生物である人間がそのアイデンティティを失ってよいのか、皆様が何も考えずに使われるために、深みも重みも失った”平和”と実現可能なのか
- 今まで何回もきていますが、今日の1番わかりやすかった。写真の力をかんじました。
- 震えるまなざしの映像が、とても印象に残った。貴重な体験をありがとうございました。
- いままでは、こわいな。と思っていただけだったけど、この場所に来て、本当につらい思いをしていた人がいたので、同じことが二度とおこらないといいと思いました。
- 中学の修学旅行ぶりに広島に来たのですが、企画展の展示や映像を見ながら、改めてこのような惨状を起こした戦争を起こしてはいけないと強く感じました。
- I learnt so much from visiting this memorial hall. I particularly thought that listening to hibakusha's memories in the reading group helped me to understand their experiences. I hope for a world without nuclear weapons. (英国からの来館者)

【翻訳】 祈念館に来て、多くのことを学びました。特に、被爆者の体験談を朗読ボランティアが読んでくださる朗読会に参加したことで、被爆体験をより理解することができました。核兵器のない世界を希望します。

- 広島に長く住んでいますが、ここまで理解が進んだのは初めてです。世界にも発信していきたい。今回の企画展は常設化してほしい。カメラマン＝プロが撮ることが惨状！ということを示されていたのが印象に残りました。遺族の方が見つからない方が一人でも多くの遺族に会えますようにと思います。
- 震えるまなざしを是非 YouTube にて公開してもらいたいです。世界中の人に見てもらいたい！！！！
- ここに来て、ピカドンがのこしたものはただ一瞬の破壊だけではでないと知った。苦しみは続いているのだとわかった。知らなかったことをもうしわけなく思う。記録に残してくれたからこそ私は知れた。ありがとうございます。
- 記録の保存資料の中に、おじ、おばの名前を見出せたことが...。名前でしか知らなかった伯父が生き生きと甦るようで...是非また従兄弟と来たい。
- ぼくはしょうがっこのいちねんせいです。ビデオをみてからこわかったです。せんそうがな

いように。

- 日本の国策が間違っていたという考え方と原爆投下を同じこととする考え方に疑問。どの国が投下したのかを（英文も日本も全て）名記する必要を感じた。
- 呉市から、近くの清住寺というお寺で父の三回忌のため参りました。母と相談し、父の写真を選びました。（当時4才）79才で亡くなりましたが、とても幸せな人生を送ったと思っています。54才の時に記した父の体験記に初めて触れました。戦争の話は、我が家ではタブーとされていたので、少し驚きました。2年前に亡くなった父にふれることができ、胸が熱くなりました。
- 広島原爆のビデオを見ました。みんながくるしい思いしてたのがわかりました。ぼくはそれを見て、とても悲しかったです。もう二度と戦争や原爆などを世界からなくしたいです。世界平和をねがっています。
- 宇品で被爆した母から聞いていたキノコ雲。「震えるまなざし」の展示パネルで見て、あまりの大きさにショックを受けた。当時14才だった母はどんなに恐い思いをしたらろうと。
- 今日大阪から来て朗読会に参加しました。来てよかったと思います。かつて佐伯敏子さんの歌をつくったのですが、その話を大阪で、小学生に伝えています。大きな学びとなりました。ありがとうございました。
- **Incredibly moving and powerful reminder of what happened here and the human cost. Thank you to the volunteers who read survivors' statements and poems - it was deeply effective, and bringing us to the personal level of those who were exposed to the bomb really did a lot to communicate the horror of the event, and remind us never to repeat this great mistake. Thank you for your bravery and time.**（不明）

【翻訳】大変、心を動かされ、またここで何が起きたのか、その人的被害について、強烈に思い出させてくれる館だった。被爆体験記及び詩を朗読してくれたボランティアの方に感謝申し上げたい。大変、効果的かつ原爆に遭われた一人一人の個人レベルの感情を教えてくれ、原爆投下によってもたらされた恐怖を知ることが出来、このような大きな過ちを二度と繰り返してはいけないと教えてくれるものでした。皆様の勇気と時間に感謝します。

- 二度目の訪問でしたが、改めて、「震えるまなざし」素晴らしかったです。ありがとうございました。
- 「たずねびと」という教科書の物語を読んできました。とても神秘的なところでした。原爆で亡くなった人の死が重くのしかかりました。
- 茨城県から来ました。高校生のとき、長崎へ修学旅行に行きました。そのときから次は広島に行きたいと思っていて、20年の時を経て広島へ来られました。高校の時にも感じた恐怖や

平和への祈りを改めて感じました。あの時と違うのは自分が親になったこと。原爆は尊い命をあまりにも多く奪っていきました。涙で写真が見えず、目を離してしまいました。平和ボケだと言われていますが、何を言われても平和であることが1番だと思います。世界で起きている戦争もどうか終わって平和な幸せな世の中であってほしいと強く思います。

- **Thank you for opening my eyes to the true tragedy that the A-bomb causes on the lives of many Japanese citizens. I pray that this never happens again.** (不明)

【翻訳】多くの日本人の命に原爆が何をもたらしたのか、その本当の悲劇を知ることが出来、感謝している。このようなことが二度と起こらないよう祈る。

- **I was tremendously moved by the presentation here. This is something I knew about already but being here today truly made the realisation stronger. I truly pray our world can do a better job of keeping peace. Thank you for keeping this reminder.** (ジャマイカ)

【翻訳】この館の展示に非常に心を動かされました。自分が知っていたことを、ここに来て本当の意味で深く知ることが出来た。私は世界が平和を守るためにより良い行動を起こすことが出来るよう心から祈る。こうしたことに気づかせてくれたことに感謝する。

- 青森県から来ました。初めての広島となります。2022(R4)11.4 には長崎の平和公園（平和祈念像）の前で、原爆被災者へ哀悼の意を捧げました。広島も同様です。テレビで見ることしかなかった現地（原爆ドーム）を実際に見て、原爆のすさまじさやその悲劇を痛感しました。日本が平和であること、それは広島・長崎のような悲劇を二度と起こしてはならないという強い思いがあります。しかし、世界情勢は刻一刻と変化しており、ウクライナのようなことが我が国でも起こるかもしれないことは否めません。私自身も青森から平和を祈念しここに記帳します。戦争は二度と起こしてはなりません。核兵器は絶対に使用してはいけません。
- ひいばあちゃんに会えて嬉しかった。ひいばあちゃんの手記を初めて読んで、私だったら黒こげになった人を持ち上げることは絶対にできないと思った。祖母が14歳で被爆しました。2人の子ども（6歳、12歳）を連れて初めて手記を読みました。当日どのように過ごしていたか、2人に伝えられてよかった。むごい出来事を感じてくれたはず。またひいばあちゃんに会いにきます。 **A touching tribute to the victims of Hiroshima.** (オーストラリア)

【翻訳】広島で犠牲になった方のための館だと思う。

- 希望世界不再有戦争、見有笑容和幸福（中国）

【翻訳】世界から戦争がなくなり、世界に笑顔と幸せが訪れることを願っています。

- 原爆の悲惨さや当時の様子を残した平和祈念展示資料館に加えて、こうして犠牲になられたひとりひとりのことを想い、手を合わせることで出来る追悼平和祈念館があつて、心が救われた気持ちになりました。今後、原爆を含めた戦争は二度と繰り返さないためにも、こうし

て亡くなられた方々を想うこの祈念館はとても大切にしていきたいと思います。今日来られてよかったです。ありがとうございました。

- 1歳半の娘を育てている母親です。遺影で同じくらいの子が写し出された時、この子にも未来があったのに...と思うと泣けてきました。あとかたも無くなった町は原爆の恐ろしさを物語っていました。私は東京から2021年こちらに越してきました。何かあったり自分を見つめ直したい時こちらに来ます。いつか戦争についてもっと学び語り部になりたいと思っています。
- 広島・長崎の事に関しては戦争を知らない私にとっては他人事のように思っていたと思います。体験記を読むとほんと泣けてきます。自分の周りでこの様な事が起こったらどうしようと考えさせられました。戦争は大切な人も無くすし、良い事なしです。世界人類が平和でありますように。ありがとうございました。
- タイルの張られた死没者追悼空間にいたときに聞こえる音が水の落ちる音だけで、原爆が落ちた当時も同じように悲惨で静かだったのではないかと思った。今、一步でも外に出れば平和に小学校のチャイムやスズメやハトの鳴き声や人の話し声が聞こえてくる。そんな平和が当時には願っても手に入らない幸せの空間なのではないかとも思った。遺影に写し出される多くの子どもや学生も一瞬にして命を奪われたと考えると胸が痛かった。
- 記念館（資料館？）が閉まっていた残念でしたが、こちらの展示も十分に満足いくものでした。特に子ども向けの学習ワークブックが秀逸。大人も館内のまわり方を理解できるので助かりました。子どもはもちろんこのようなクイズが大好きなので勉強させたい大人と楽しみたい子ども、両方に嬉しいワークブックだな、と思いました。
- 当施設や他史跡等を観て、ただの人々が、ただの街や家屋等が、戦災に遭い破壊されてしまったのだと強く感じました。そして、こんな経験をせず生きられる時代や国にいられる事は有難い事なのだと強く感じた。然し、世界では未だ核兵器や戦争の恐怖や災害があり、日本がこれから再びそれらに遭う可能性は依然ある。その上、戦争等に対し、実感を持ってない分、平和や戦争等とは何か、それに対しどういう意識をもちどう行動していけばいいかが希薄になっている人々が多くなっている。無論それで過ごせるに越した事はないのだが...。最近ではウクライナとロシアの戦争もあり、意識や行動が本格化してきた人々も多いと思うけれど、起きてからそうしては遅いし、戦争の辛苦の前例は歴史上いくつもある。故に、私達は、歴史や、戦争の資料や史跡等をよく学んで、戦争やその辛苦が常に襲いうるという現実を受け入れると共に、そうしない・させない（直接の関係者かどうかに関わらず）と皆で思い合って、抑制をマスの的に且つ内面から持続できるようにしないといけないのだ、と思った。私自身も、身近でできる事があつたら少しでもやっておきたい。以上長文になりました。

たが、当施設はじめ様々な資料や史跡を管理し、我々が学べる様にしてくれている方々、世界で起こっている戦災に立ち向かったり救援したりしてくれている人々、日本の防衛に尽力されている自衛隊の方々等、平和や戦争の為行動を起こしてくれている人々に感謝いたします。

- Thank you for the priceless experience that it is to see all the history from its core. I learned a lot, and from today on I'll act and also pray for the world peace! (ブラジル)

【翻訳】原子爆弾のことをその中心部から考えることが出来た。お金では買えない経験が出来たことに感謝します。多くを学んだことで、今日から世界平和のための行動し、心からその実現を祈ります。

- たくさんのおもて、ひとつも言葉が出てこなくなりました。ただ、戦争で亡くなったひとりひとは、私のように考えることすらできないまま、涙を流すことすらできずに、涙を流すことすらできずに、この世を去ったのかもしれないと思いました。
- かなしかったしこわかった。せんそうをしないようにしたい。しずおかより。
- 私（高2）のひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんが原爆の体験をされていて、小学校の時に何度かはなしをきいたことがあります。はなしをきいているだけでとても悲しい出来ごとだったのだと、小学生ながら思っていました。今（高2）になって、いろいろわかるのでどれだけくるしかかったのか、ふかくかんがえます。

入館者からの感想や意見・要望等

長崎祈念館 1 頁～5 頁

長崎祈念館における入館者からの感想や意見・要望等

1. 概要

平成 17 年 2 月から「ご意見ノート」を置き、入館者に感想や意見等を自由に記入してもらっている。一時期、新型コロナウイルス感染予防のため撤収していたが、7 月からは感染拡大防止措置を講じながら再設置した。来館者も徐々に増加し、その中での外国語（英語、ハングル、中国語、アラビア語、アジア・ヨーロッパ各言語）での感想・意見が半数以上を占めた。

2. 主な意見・要望等

特になし。

3. 感想（感想ノート原文のまま掲載）

(1) 祈念館について

○初めて長崎に来ました。追悼空間の静けさ、少しひんやりとしたあの空間は一生心に刻まれると思います。（日本）

○追悼祈念館に流れる水を見て私は無力さと悔しさを感じました。水を飲んで死んだ少女に水をたくさん飲ませたかった。いつもより水が美味しくてなぜか塩辛いです。（日本）

○心に残るような時間をありがとうございました。テキストや文学的な収集物がとても気に入ったので、これからもしっかり紹介してほしいです。（原文英語 マレーシア）

○こんなにも美しい場所があったんだ。澄んだ空気を感じ、美しい空を見ることができます。長崎で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りします。（原文英語 マレーシア）

○本当はとても悲しいのですが、この場所は私に最大のパワーを与えてくれます。平和な世界を願っています。（原文英語 不明）

○私は長崎出身なので、この場所を訪れたことがあります。この場所に来ると、平和を考えさせられます。（原文英語 不明）

○荘厳でありながら、重すぎない素晴らしい追悼施設です。特に、犠牲者の数、記録の量、つまり犠牲者の数が増え続けていること、そして犠牲者の名前が記された名簿棚が実際にあることなど、「ファットマン」による破壊を視野に入れた内容になっています。この場所と、この悲劇に捧げられた他の場所を人々が訪れる機会がありますように、そして世界に平和が訪れますように。(原文英語 カナダ)

○美しい追悼施設、起こったとても不幸な出来事。常に平和を選択するための戒めとなるように。(原文英語 不明)

○痛ましいけれど人類史にとっての重要な出来事をあらわした尊い施設です。この場所が戦争の恐ろしさと人類における平和の大切さを伝える施設として、あり続けますように。(原文英語 イギリス)

○罪なく命を落とした方々に敬意を表していただき、ありがとうございます。この祈念館を歩いて感じた感情を表現する言葉はありません。私たちは平和をもたらし、罪のない人たちの苦しみを終わらせなければなりません。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。(原文英語 アメリカ)

○二度とこのようなことが起こらないように、記録を守り、世界に発信してくれてありがとうございます。(原文英語 ドイツ)

(2) 展示について

○原爆直後の写真展(77年)をみせていただきました。一瞬にして灰と化した長崎の街、祖父が亡くなったのもうなずけます。長崎が復興してくれたのは嬉しいですが、この惨状をもっと多くの人に知らせてほしいです。このような原爆展は、ずっとしてほしいです。(日本)

○この追悼平和祈念館は、核を無くし、平和を願うシンボルとして、存在意義があると思います。「平和のメッセージ」は、自身の思いを文字として表す、又、自身への誓いの意味で有効だと思います。10年間、メッセージを保存していただけのことから、ホームページから、時々確認してみます。長崎に来た際は、必ず立ち寄り、追悼したいと思います。(日本)

○島根県出身で、広島資料館には何度も行ったことがありますが、長崎は初めてでした。日本人の被害者だけでなく、外国人の捕虜の方々の体験なども知る

ことができ、大変勉強になりました。戦争、核を早く“過去”のものにできるように、ただ資料を見て悲しむだけでなく、現在の世界の紛争、戦争を無くしていけるように精一杯活動していきたいと思います。核、戦争で亡くなられた人々に哀悼の意を表すと共に、1日も早く世界平和が達成される為に働いていくことを誓います。(日本)

○素晴らしい展示です。歴史を維持するためのすべての努力に感謝します。
(原文英語 マレーシア)

○戦争が大変なことだと、してはいけないことだと分かっているつもりで、本当の意味では理解していなかったと思いました。今の平和な日本では、人の死はどこか遠くて、他者から命をうばわれることは、まずありません。そんな平和な今を生きていることに感謝すると共に、未来の日本も平和であることを祈っています。原爆資料館は悲慘な歴史を伝えるだけの場所だと思っていましたが、戦争のない未来へのメッセージと希望がありました。(日本)

○小さい頃から、祖母に戦争がどれだけ怖く、恐ろしいことかを聞き、今回企画展で様々な方々のお話を読ませていただき改めて戦争の怖さを理解しました。戦争の恐ろしさは絶対に忘れてはいけないと思いました。(日本)

(3) 平和に向けての主張

○原爆や戦争の恐ろしさを知って、争いからは何も生まれないんだと思った。今、ロシアとウクライナが戦争をしている。そのニュースを観るたびに心が痛くなる。ウクライナの人々は今も、恐いおもいをしているかもしれないのに・・・自分はいつも通り幸せに暮らしている。世界中で、もう戦争によって悲しむ人がいなくなりますように。また、来ます。(日本)

○改めて戦争の恐ろしさ、原爆の危なさを知ることができました。これから社会に出ていく人間として、後生に受けついで行かなければならないと再認識いたしました。この場を残していただきありがとうございます。長崎の地、日本共々平和でありますように。世界中に幸せを。(日本)

○笑顔で過ごせる日常が平和。小さな幸せを大切に。「対立」を身近なくらしから減らせるように心がけます。(日本)

○地獄絵図という言葉でも収まりきれない程、悲慘でしょう。結局戦争をするこ

とは何も生まないし、失っていただけだと思いました。広島、長崎だけでなく、沖縄、当時の日本領の外国地等、数え切れない悲しく苦しい事実があったでしょう。命を失うのは数の問題ではありません。戦争で亡くなった方々にご冥福をお祈りしますと共にウクライナ等、戦下中にある国々の平和がすぐにでも訪れるよう願っております。(日本)

○私は、我が国が日本に与えた苦痛を目の当たりにして、大きな悲しみを感じています。戦争の恐ろしさは、本当に際限がありません。私は、このような兵器が将来、検討される必要がないことを深く願っています。平和は難しいかもしれませんが、それが人類にとって常に最善の道なのです。(原文英語 アメリカ)

○安全と平和が世界中に広がることを願っています。(原文アラビア語 イエメン)

○世界に平和が訪れ、すべての生きとし生けるものが幸せになりますように
(原文中国語 中国)

○戦争をやめさせ、平和と愛を常に私たちの柱にしましょう。(原文英語 タンザニア)

○戦争に勝者はなく、損失と痛みがあるだけです。平和の時代を迎えよう！
(原文英語 オランダ)

○深い哀悼の意を表します。戦争のない平和な世界を祈ります。(原文韓国語 韓国)

(4) その他

○原爆投下の瞬間に亡くなった方々は、無念だと感じることもなく、また、生き残った方々や、残された方々も、いつまでも消えない恐怖と苦しみに囚われざるを得ない。戦争・原爆という存在が本当に憎いと思いました。そう思う私も“人”、戦争を起こしたのも“人”。今、生きていることの有難さを胸に、どんな人で在りたいか、今一度考えたいと思います。全ての方が、そちらで安らかに暮らされていますように。(日本)

○長崎の悲惨な事実を知り、それをどう考えて、さらに平和のために行動していかけるかが大事だと感じました。朗読会はそれを再認識させていただける良い機

会でした。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。(日本)

○私は、米国ニューメキシコ州のロスアラモスという町で育ちました。原爆開発の舞台の1つです。幼い頃から、この人生を変える瞬間の歴史全体について学ぶことが重要だと感じていました。京都平和博物館、広島、長崎を訪れたことは、平和について学ぶ上で、人生を変えるような出来事でした。時間が経つにつれて、私たちがお互いに理解し、共通の歴史を持つことで、世界がより良い方向に変わっていくことを願っています。(原文英語 アメリカ)

○すべての世界に平和を。私の名前は Nazym です。カザフスタンから来ました。ここと同じように、私の国のセメイの町で原爆の犠牲者が出ています。ここは、世界の平和と愛の象徴だと思います。私はここで週末を過ごすことができ、とても幸せです。歴史を教えてくれてありがとうございました。(原文英語 カザフスタン)

○彼らの魂に神の慈悲がありますように。彼らが安らかに眠れますように。この悲劇的な事件で命を落とした犠牲者の魂のために、ここにいて祈ることができるのは大変光栄なことです。私は日本の皆さんに最大限の敬意を表します。皆様に神のご加護がありますように。(原文英語 不明)

○東京都からやって来ました。長崎は修学旅行以来です。美しい街並みをちゃんと覚えてて、思った通りの光景だったのでとてもうれしかったです。今、原子力工学を勉強しています。原子力発電の正当性もわかっているけど、「平和」について考えると分からなくなります。世界平和のために、火力、水力、バイオマス、原子力を組み合わせ、効率的にエネルギーを生み出そう。僕にできることを、平和のためにやってみます。ありがとうございました。(日本)